



「居」食住で支える子どもの笑顔

佐賀県佐賀市 特定非営利活動法人空家・空地活用サポートSAGA





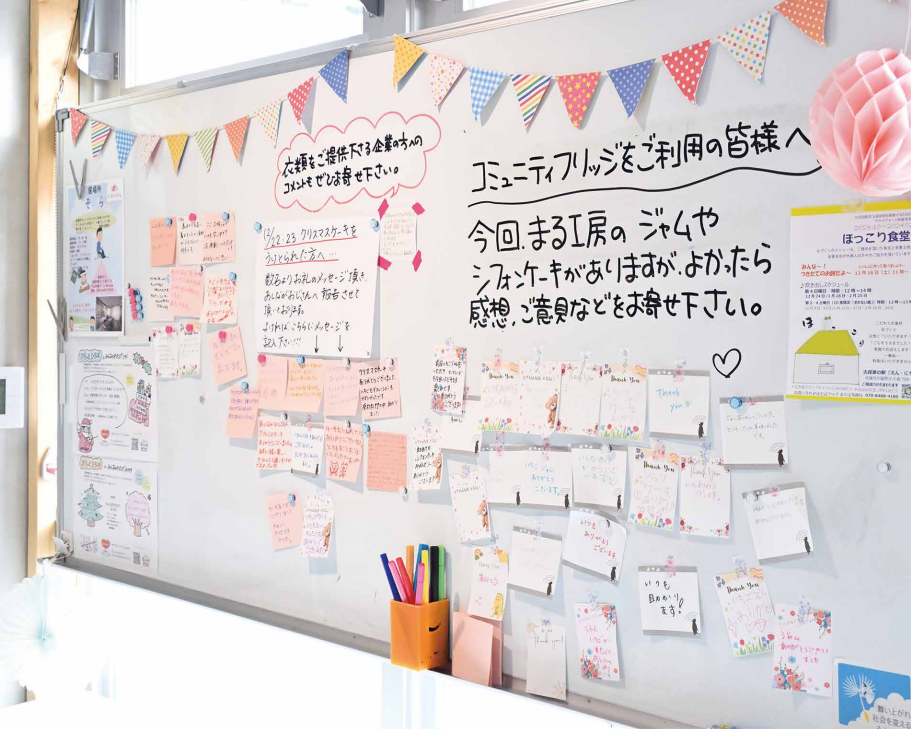
佐賀駅を降り、大通りを南に歩いて10分ほどの唐人町商店街。その一画に、創業約170年の老舗豆腐店廃業後の店舗を改築した「まちなかオフィスTOJIN 館」がある。今回、その拠点を運営する、特定非営利活動法人空家・空地活用サポートSAGAが取り組む、無人食料品提供の場「佐賀コミュニティフリッジ」と子どもの居場所づくり「居場所そら」を訪ねた。

2016年に設立された特定非営利活動法人空家・空地活用サポートSAGA(以下「そらそら」)は、①地域の空家・空地問題を解決する取り組みを柱に据え、その活動は②地域活性化や街づくり(シェアオフィスなど)③生活困窮者・外国人等の居住支援④被災者のための住居確保などの災害支援⑤子どもの居場所づくり⑥食料品の備蓄やコミュニティフリッジなどの食糧支援―といった6つの分野まで支援の幅を広げ、地域の様々な課題を解決することにつながっている。

このような取り組みを可能にしたのは、地域の様々な士業や専門家(大学教授など)とのネットワークだ。代表理事の塚原功さんは、この活動に携わる前には民間のハウスメーカーに勤めていた。この時の士業等の方との関係性が、現在の活動に生きているという。活動の広がりについて塚原さんは、「空き家対策から始まった活動がここまでになるとは想定していなかった。人間の営みとして、住居や居場所が無いとはじまらないことを改めて感じている」。今回、そのネットワークによって生まれた「佐賀コミュニティフリッジ」と「居場所そら」の活動を取材した。

2022年5月から始まった佐賀コミュニティフリッジ。コミュニティフリッジとは、食料品・日用品の支援を必要とされる親子が、時間や人目を気にせず、24時間都合が良い時に提供される食料品・日用品を取りに行ける仕組み。全国的に見てもこのような取り組みは少なく、先進的な取り組みだ。佐賀では、児童扶養手当を受給しているひとり親家庭を対象として取り組





まれ、「そらそら」の拠点からは少し離れた場所にある。この取り組みを始める契機について、副代表理事の内川実佐子さんは「コロナ禍で仕事を無くしてしまった方々に住宅を提供しただけでは、不十分。食べることも困っているひとり親家庭の人たちが、好きな時間に食料品を取りに来てもらえる場所ができれば、親子笑顔で過ごせる時間が増えるのではないかと考え、この取り組みが始まった」と話す。

佐賀コミュニティリッジは、さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会が運営を担い、食料品や日用品の棚入れ作業や賞味期限のチェック、利用者とのコミュニケーションをするためのメッセージボードの作成などを行っている。「利用者はネットで登録し、セキュリティ面も考慮し、スマホで出入りを管理している」というスタッフの小野さん。ICTを活用し、利用者に子ども支援の情報などを流すなど、細かな対応を行っている。この取り組みをテレビで知り、自身もひとり親であるスタッフは、棚入れ作業をしながら利用者が安心できるようにちょっとしたコメントを残すなど、きめ細やかな場づくりを心がけているという。その想いについて「物価高騰が続いていて、食品や日用品を買うことを躊躇してしまうこともある。そんな時、この場所があることで、困った時にはここに行けば大丈夫、と安心できる場になってくれたら」と語ってくれた。

利用者とのメッセージボードを見ると感謝の言葉などが書かれている。「ボードを見るたびに、見えないコミュニティのようなものが出来ているようで、自然と力が湧いてくる」と企業とのパイプづくりを行っている「そらそら」相談役の勝屋弘善さん。実際にボードを見るとこんなメッセージがあった。「心がゆらゆらでしたが、みなさんの心の温かさにつれ、前向きにがんばりたいと思います」。

「そらそら」の活動の中には、子どもの居場所づくりを行う「居場所そら」がある。拠点であるTOJIN館で、子どもたちが自



由にそれぞれの時間を過ごすことができ、何も無い時も、ふらりと立ち寄れる居場所として、2022年4月に開所した。毎週月・水・金の3回、15時から18時まで開所されていて、誰でも利用できる場所になっている。この日は、地域の小学生と高校生が参加していた。和室でゴロゴロしながら自由に遊んでいる小学生を、キッチンにあるテーブルの席で高校生がたまに目を配りながら、学校の話題などで盛り上がっていた。

子どもたちは、お腹が空くとスタッフが作ったおにぎりを手に取り、おいしそうに食べていた。開所当時、ご飯とお味噌汁、おかずなども用意しようというアイデアもあったのだが、スタッフが無理なく長く続けられることを考え、おにぎりに決まった。子どもとの関わり方についてスタッフの方にも聞く、「子どもたちから話しかけやすく、なんでも言いやすいような関係性を作っていきたい」と話してくれた。様々な背景を持っている子どもたちと「近過ぎず、遠過ぎず」の絶妙な距離感で、優しく見守りながら子どもたちに向き合っていた。

佐賀コミュニティフリッジと居場所そらの活動を主に担っている、内川さん。市民活動という言葉を知ったのは40代の頃だったが、今では様々なつながりを活かして、新しい取り組みを生み出している。

内川さんに子ども支援への思いについて伺ったところ、次のように話してくれた。「ご支援してくださる皆様の「子どもたちへの思い」をつなぐことが私の仕事です。私は、子どもの笑顔をとくさんつくられたらと思い、そのためにはお母さんの笑顔が必要不可欠だと思っています。どうしたらお母さんが幸せになれるかなと考えながら、日々活動しています」。

【連絡先】 特定非営利活動法人 空家・空地活用サポートSAGA
〒840-0813 佐賀市唐人二丁目5番15号 TOJIN館 2F
E-mail: info@sora-sora-saga.com